

森林所有に関する国際会議& JICA/REDD+調査現地視察

■ 「森林所有、ガバナンス及びエンタープライズ」に関する国際会議

国際森林年にちなみ、ITTO、インドネシア林業省および RRI (Right and Resource Initiative)の共催で、7月11日～15日にかけて、ロンボク島で「森林所有、ガバナンス及びエンタープライズ」と題する国際会議が開催されました。オープニングには、インドネシアのブディオノ副大統領およびハッサン林業大臣、ITTOからはゼメッカ事務局長が出席し、会議参加者は、政府関係者やNGO等外国からの約100名を含めて総勢約250名に上りました。FFORTRAは、会議費用の一部を支援し、併せて会議場に展示ブースを設置して、JICAの協力を紹介しました。

<主な発表>

- ダリヤント林業省大臣官房長： インドネシアにおける森林管理に関する課題として、所有に関する法律の整備、貧困緩和に向けた政策、住民参加やジェンダーなどを含む土地所有におけるガバナンス、市場へのアクセス等を指摘しました。
- クントロ UKP4 長官： 中央カリマンタンでは56万haの国有林で、林業省と地方政府のそれぞれ発行した利用許可が重複しているなどの事例を示しながら、森林所有に関する問題解決の重要性を訴えました。また、5月に発令されたモラトリアムに言及し、次のステップとして、共通の地図の作成と慣習的権利を保証する国有林の法制度の制定が急務であると指摘しました。
- ノルウェー政府代表： REDD+に関する同国のインドネシアに対する支援について、二番目のパイロット州を今年末までに選定する予定であること、また、第2フェーズ(2011～2013年)の課題として、①コミュニティ・フォレストを促進するため、生態系回復許可へのコミュニティのアクセスを単純化すること、②土地所有の確保、③農業生産性の向上、④参加型土地利用計画、⑤ランド・スワップのための荒廃地の特定等が挙げられることを説明しました。

この他、主にインドネシアを始めとするアジアや中南米における森林所有の変遷やCBFM (Community Based Forest Management)の動向、協同組合による木材生産や林産加工業の事例、地域住民の生活保障を考慮した土地利用計画策定に向けた地図作成への住民参加、CBFMにおけるジェンダーの役割と課題等について多数の発表があり、活発な質疑応答が行われました。

<全体的な論調>

森林所有を巡るコンフリクトの解決には、森林の所有または管理の権利を政府からコミュニティや先住民へ移譲することが重要であること、また、森林所有を保障することが、投資のリターン保障につながり、森林を活用した企業活動を通じた生計向上へ貢献しうることが指摘されました。

CBFMの必要性が指摘される一方、CBFMが非商業的利用に限定されている場合があること、CBFMの設立手続きが複雑かつ長期間を要すること、市場へのアクセスや初期投資などの支援が不十分であること、女性の役割が限定されていることなど、依然として多くの課題があることが明らか

にされました。また、REDD+との関連においては、森林・土地所有を明確にすることは REDD+実施の前提条件であり、REDD+の利益分配という点からも重要となることが指摘されました。

■ REDD+に関する現地調査の概要

前号でご紹介した「インドネシア REDD+実施支援調査」の一環として7月11日～23日にかけて、中央カリマンタン州、ゴロンタロ州(スラウェシ島)、ジャンビ州(スマトラ島)の現地調査が行われました。FFORTRAはこのうち中央カリマンタン州とゴロンタロ州に同行しました。

<中央カリマンタン州>

中央カリマンタンでは、泥炭湿地にあるセバンガウ国立公園やスハルト時代に入植と米作導入を試みたメガライスプロジェクトの跡地などを視察するとともに、州政府などに REDD+の進捗状況について聞き取りを行いました。セバンガウ国立公園は57万haに及ぶ泥炭湿地林の国立公園ですが、良く森林が保全されていました。しかし、その周囲の泥炭地では、運河の周辺から森林減少・劣化が進んでいる状況が見られました。また、乾季だったこともありメガライスプロジェクト跡地からは、泥炭火災と見られる煙が多数上がっていました。

中央カリマンタンはノルウェー支援による REDD+パイロット州となっています。現在州政府の下に REDD+政策を一元的に調整する KOMDA という枠組みができており、州の REDD+戦略策定作業を始めています。

<ゴロンタロ州>

ゴロンタロ州はスラウェシ島北部にある州で、面積122万haと比較的小さい州です。泥炭地は分布しておらず、比較的緩やかな山地が多い州となっています。ここでの森林減少・劣化の主要因は、焼畑移動耕作を含む農地の拡大と考えられます。また、耕作地の影響などで土壌流出がみられ、州都の近くにあり、生活の重要な基盤となっているリンボト湖の堆砂が進んでいます。

また、同州は金や銅などの地下資源が豊富に存在し、東部のボガニナニ・ワルタボネ国立公園周辺などで、鉱山開発が計画されているとともに、州西部ではオイルパーム園が計画されているなど、今後は林地の開発が森林減少・劣化の主要因になっていくのではないかと考えられました。



中央カリマンタン、減少・劣化する泥炭湿地林



ゴロンタロ、堆砂するリンボト湖

<JICA-JST プロジェクトサイト>

インドネシア国家森林計画実施支援プロジェクト (FFORTRA)
Facilitating the Implementation of National Forestry Strategic Plan
インドネシア林業省 (Manggala Wanabakti) ブロック VII、6 階
TEL: 62-21-572-0218 Email: ffortra@jica-dephut.or.id (高原、山内)